

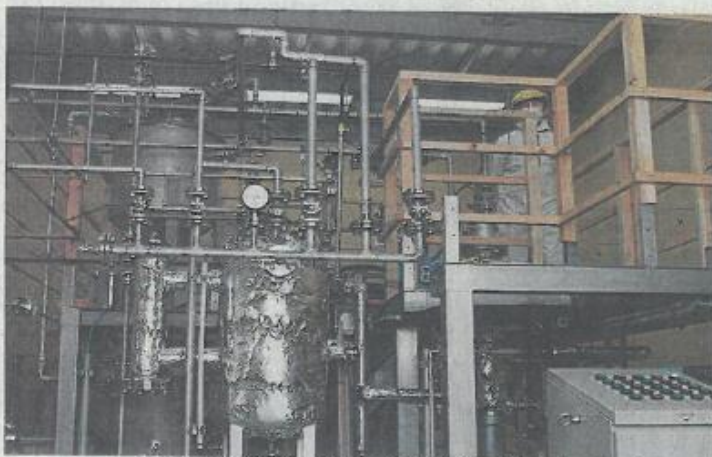
# アルミ合金削り粉から水素

## 高岡・アルハイテック開発へ

アルミから水素を生成する技術を持つベンチャーのアルハイテック(富山県高岡市)は十日、自動車などの製造工程で出るアルミ合金の削り粉から、水素を安定的に作る装置を開発したと発表しました。トヨタ自動車の協力を得て実証実験を続け、来年四月の発売を目指す。次世代車として注目される燃料電池車(FCV)の普及などに貢献したい考えだ。

(高本容平)

アルハイテックは地元企業に在籍中、純アルミと特殊薬など八社が出資し、二〇一三年に設立した。水木伸一社長は「トヨタ自動車(同市)と協力を得て、水素を生成する技術を開発



アルミ合金の削り粉から水素を生成する装置  
＝いずれも富山県高岡市のアルハイテックで

## トヨタが協力、来春発売目指す



し、特許を取得している。新たな装置もこの技術を採用。特殊溶液との化学反応によりアルミ合金から水素を生成する。溶液を温度調節しながら循環させて、純度の高い水素が連続して発生するよう工夫した。アルミ合金一箱でFCVが約二十分走行できる水素を生成するといふ。



水素の原料となるアルミ合金の削り粉と、それを入れる専用のかご

るか、圧縮して水素ステーションなどに輸送する必要がある。アルミ合金を使つてその場で生成できるようにすれば、コストを大幅に削減できる。副産物として生じる水酸化アルミニウムも、燃えにくいカーテンやカーペットの原料として使えるといふ。

FCVの開発を加速させているトヨタは、車のエンジンや部品を製造する過程で大量に出るアルミ合金の削り粉の有効活用を目指しており、アルハイテックに協力を申し出た。アルハイテックはトヨタの工場に装置を導入することも目指している。

同日、アルハイテック本社で実証機が公開された。水木社長は「アルミから水素を生み出すのは二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量が少なく、脱石油・脱炭素社会の実現にも貢献できる」と強調。 「FCVの普及の助けにもなる。富山からエネルギー革命を起こしたい」と意欲を語った。

トヨタ自動車の上郷工場・下山工場の関根真吾工務部長は「今後の循環型水素社会に大きく寄与できることを期待している」とコメントした。